

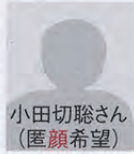
2年分のニュースをまとめて掲載。

「2年前の話でも、ニュース？」なんて、野暮なことは言いつこナシ!

会員の間では、「なにわNEWS」の名で呼ばれている本紙。一番最近の発行が、平成19年の5月。……って、もう2年も前の話やん！ それまでは年に3回発行していたのに、この空白の2年間は、いったいどないなっていたん？ そんな、裏事情も含めて、とんとんと、2年分の活動を振り返ります。

2年前の春、広報部長のバトンは、ハイタニからオダギリに放り投げられた(灰谷幸さんから小田切聡さんへ……)。しかしその夏、オダギリ結婚。翌年出産(当然ながら奥さんが……)。さらに「月刊・大阪人」への連載スタートなど、仕事面でも大ブレイク。多忙な日が続く、会の事業にもなかなか参加できない「謝り部長」と化してしまいました。そんな状況下でも当会のWEBサイトの全面リニューアルを実施。新しい案内リーフレットも完成し、ハイタニ時代に手つかずだった部分を次々とクリア。唯一手が回らなかったのが、なにわNEWSの発行というわけです。現在、会の情報発信ツールとしてサイトが大活躍しているものの、紙媒体の必要性も否めません。

さあ、どうする、オダギリ部長。こういう場合、自分がやらなくてもいいのです。やる人さえみつければ。



小田切聡さん (匿名希望)

と、いうことで急遽、編集スタッフ11名を任命。GWの真直中、この原稿を書いているワタクシであります(オダギリ、うまい作戦を考えたな)。まあ、ワタクシとしても、GW中にガソリン代も飛行機代も使わずに済み、引きこもっているおかげで新型インフルエンザに遭遇する心配もなく大助かり……(涙)。前置きはこの程度にして、本題に。

2年前に発行した22号を見ると、月例会の報告が19年2月分まで掲載されています。と、いうことは、本23号では3月の例会からスタートすればよいわけです。この時のテーマは……、「野村代表、なにわ名物の10年を語る」。そうそう、新年度を迎えるにあたって、代表幹事の交代というビッグイベントがありました。ここで「オダギリ作戦」をバクする。当時の様子について書いてくれる人を見つけたらいいのです。やっぱり灰谷さんやな。ああ見えて、彼女の本職はライター&エッセイスト。遅筆のウワサもあるけれど、ちよこつとGWに書いてもらいましょ。

ハイタニは見た！
野村さんが10年間握っていたバトンは、こうして引き継がれた。

やい、こら、ワタクシ。「あ見えて」は余計やろ。しかもGWに原稿依頼なんて許せん！……などは、申しません(思っています)。市原悦子さんの家政婦シリーズは終わってしまいました。が、今回は、「ハイタニは見ただんに交えながら当時の様子をお伝えします。」

誰かにバト



灰谷幸さん



野村育郎さん

んを渡すと言ってはりました。年齢のことは半ば冗談で、実際は、会の発展を考えると二人の人間が長く代表幹事を務めるのはよくない……という判断があったようです。とはいえ、会の設立から10年間ずっとやってはったので、バトンの受け渡しは難航。「うん」という人がいないのです。

当時は毎月、「月例会」「幹事会」「4つの部会」が開催されていましたので、大半に出席していた野村さんにとっては、少なくとも月6回「なにわデー」があったわけですね。それだけ出番が多いことから、当会を「のいり会」と見る人もいました。その見方もアリでしょう。ですが、中には野村さんが(僻せのやの社長であることから、マイナスの意味で「せのや会」と言う人も……。ワタクシ個人としては、後者はちよと違うように感じました。確かにせのや

さんは、土産物店を数店舗経営してはるので、会員の中には納入業者さんも大勢います。が、ビジネス上の力関係で、入会を促している気配は全くありません。ワタクシの入会が平成14年です。で、設立当時のことはわかりませんが、少なくとも会の事業や運営の中で「せのや会」という圧迫感を感じたことはありません。逆に、せのやの社長が代表幹事をしてくれてはったメリットを感じていた会員さんは多いと思います。ワタクシが入会して間もない頃の商品開発部会で、「これ売れるかどうか、二回せのやさんの店頭で置いてみよう」と言ってる会員さんがいて、「よその店先で、気軽にテスト販売をさせてもらえらな……」と驚いたぐらいです。

いずれにせよ10年間も続いたわけですから、後を引き継ぐのは、やりにくい部分もあるはず。ワタクシは「誰も引き受けなかったら会は解散？ いや、それはないやろ。その場合は、野村さんが統投しはるんかな？ このまま最期まで頑張れ」などと思っていたのです。そしたら、びつくり仰天。ついに腹をくくった人が現れました。ずつと首をヨコに振っていた島野さんです(当時副代表幹事)。

絶対に引き受けはれへんと思っていたので、ほんまにびっくりしました。仕事の都合で、大半の幹事会に遅刻。「遅参副代表」の異名を持つほどの人で、「遅参代表でも良いのな」という条件付きで、代表幹事に就任。2年の任期終了後、次の人にバトンを渡しやすくするために、緩めの空気を作っておこうとしたのかも(笑)。島野代表幹事の誕生を機に、野村さんは会長に就任し、以降、幹事会にも出席しなくなりました。「院政をしいたカタチになつては島野がやりにくいやろ」ということでしたが、本心はちよと寂しかったかも……。幹事会からもはずれたので、せのやの社員さんから、「ウチの社長は、なにわ名物で(別格の)天皇みたいになったんですか？」と訊かれたことがあります。なので、「(天皇のように)そんなに大切にされてません」と答えておきました。



島野渉さん

灰谷さん、ありがとうございませ(汗)。では、次ページ以降で、島野代表幹事のもと、当会が実施した事業の数々を再確認してください。老眼の方、ゴメンナサイ。

△完△

「なにわ大賞」大特集!

「なにわ大賞」では、なにわで一番のいちびりを大募集。直木賞作家の難波利三先生を選考委員長にお迎えし、毎年7月28日(なにわの日)に贈呈式を開催。町衆同士が互いに称え合うという賞の趣旨に沿って、賞をもろてもらう...と、いうことで、贈呈式を「も〜て〜式」と呼んでいます。また、「いちびり」は、せり市で手を振って値の決定をとりしきる「市振る」に由来し、転じて物事のリーダーシップをとることを指します。

第10回なにわ大賞

平成19年7月28日

贈呈式会場：中津文化芸術村ピエロハーバー

場内は熱気ムンムン。エアコンをフル回転させても追いつかず、とびきりホットな一夜となりました。



第10回は、応募総数66件の中から、10の個人・団体に各賞をもらっていただきました。大賞となった「ケンシヨク[食]の資料室」は、民間の図書施設。食に関する資料を収集して25年、資料総数は15万点にのぼります。その情熱と、「食い倒れのまち・大阪」にマッチした活動は、ほんまものいちびりです。



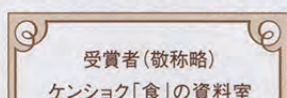
▲謎の空間「ピエロハーバー」が、来場者でいっぱい(暑っ!)



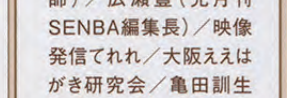
▲新たな交流が生まれるのも、なにわ大賞の良いところ。



▲贈呈式のプレゼンターを務めてくださった「new OSK日本歌劇団」の恋羽みうさん(左)と瀬乃明日華さん(右)。パーティでは、来場者と記念撮影も。



▲パーティが始まって受付スタッフも、やっと一息(暑い〜)



▲浴衣姿がバッチリ決まっている「なにわの民謡会」のみなさん。パーティの最後は、参加者全員でプチ盆踊り大会(暑さ最高潮)



▲サプライズな鏡開き「ドンパ」提供: (株)岸本吉二商店

第11回なにわ大賞

平成20年7月28日

贈呈式会場：大阪市中央公会堂(中之島)

国の重要文化財に指定されている大正期ネオルネッサンス様式の建造物、その「特別室」で贈呈式。

前年に、節目となる第10回を終え、そろそろ応募者もネタ切れか...と思ったら、なんのなんの。第11回も大阪のいちびりさんが大集合しました。応募総数は61件。大賞となったのは「山本化学工業」。オリンピックの水着問題で、同社のバイオラバー swimsuit が脚光を浴び、大阪が持つ「物づくりのまち」としての一面を世に知らしめた功績は大きく、まさになにわの誇りです。

受賞者(敬称略)
山本化学工業株式会社 / 上田秀行(株式会社秀英会長) / 船場大阪を語る会 / 大阪春秋 / 大阪楽団 / 堺のチンチン電車を受する会 / なにわの伝統野菜 勝間南瓜普及の会 / 古川武志(大阪市史料調査会調査員) / 吉田光華(乙女文楽)



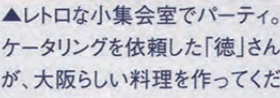
各賞受賞者の名目で、贈呈式に9の個人・団体をお招きしました。初の試みとして、「誰がどの賞」という内容は、当日までシークレットで行いました。



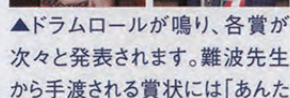
▲レトロな小集会室でパーティ。ケータリングを依頼した「徳」さんが、大阪らしい料理を作ってくださって、和やかなひととき。



▲ドラムロールが鳴り、各賞が次々と発表されます。難波先生から手渡される賞状には「あなたはえらい!」と書かれています。



▲中から金銀のメダルテープが飛び出す鏡開き「ドンパ」が恒例となっていますが、わずかに火薬が入っているため、中央公会堂では使用禁止。そこで、受賞者それぞれに、「ミニ鏡開き」を用意しました。9名揃っての鏡開きは、ひょっとして世界初?



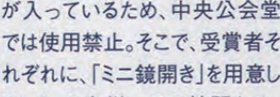
▲ついに大賞発表。このあと、取材陣に囲まれていました。



▲中から金銀のメダルテープが飛び出す鏡開き「ドンパ」が恒例となっていますが、わずかに火薬が入っているため、中央公会堂では使用禁止。そこで、受賞者それぞれに、「ミニ鏡開き」を用意しました。9名揃っての鏡開きは、ひょっとして世界初?



▲ついに大賞発表。このあと、取材陣に囲まれていました。



▲中から金銀のメダルテープが飛び出す鏡開き「ドンパ」が恒例となっていますが、わずかに火薬が入っているため、中央公会堂では使用禁止。そこで、受賞者それぞれに、「ミニ鏡開き」を用意しました。9名揃っての鏡開きは、ひょっとして世界初?

なにわ大賞10周年記念

～モダンシティふたたび～

平成20年3月27日、難波の「ワッハホール」で開催。記念式典と、「モダンシティふたたび」と題したステージの二部構成で、一般の方にも多数ご来場いただきました。

第1部

歴代の受賞者がステージ上にズラリと勢揃い。第1回のにわ大賞から選考委員長をお願いしている難波利三先生にご挨拶を頂戴し、式典が始まりました。



▲歴代受賞者の紹介を、当会特別会員の旭堂南陵師匠にお願いしました。さすが講師さん。「なにわ大賞100人衆大手柄」と題し、受賞者の活動内容をテンポの良い名調子で聞かせてくださいました(聞き惚れました～)

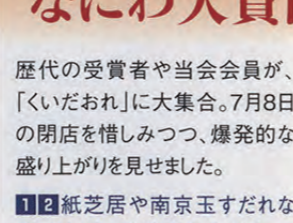
▼司会はFM大阪くらこれ企画プロデューサーの吉川智明氏。第1回からお世話になっています。



▲第7回受賞、「民の謡」森田玲氏の篠笛の音色で、式典が一層厳かなものになりました。



▲元OSK日本歌劇団の萌川菜さんを中心に、森野木乃香さん、ひび希美香さん、茜真央さん、華野もかさんによる、華麗なレビュー「輝く大阪」。この日のためのオリジナル曲あり、衣裳のクイックチェンジあり、場内はたちまち別世界。



▲「大阪楽団」が繰り広げる「モダン音楽祭」では、場内から自然と手拍子が。「サウスサイドジャズバンド」の吉川裕之氏の友情出演により、さらに豊かな音色に。

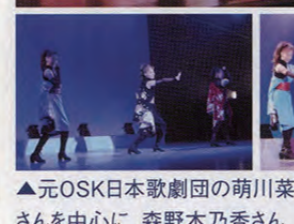


第2部

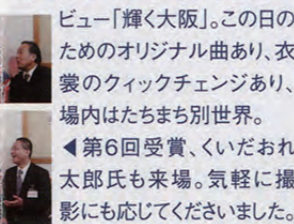
「大大阪」と呼ばれ、大阪が輝いていた時代の音楽や文化を、「新しい時代のモダンズム」として再発信...。そんな思いを込めて当会が企画した「モダンシティふたたび」の第3回にあたります。



▲第2部司会は、当会の野村育郎さんと灰谷幸さん(両端)。無声映画「鍛冶屋」のあと、弁士の旭堂南陵師匠(中右)と、伴奏の「林幸治郎と星空楽団」の林氏(中左)にマイクを預けて(奪われて?)インタビュー。



▲「大阪楽団」が繰り広げる「モダン音楽祭」では、場内から自然と手拍子が。「サウスサイドジャズバンド」の吉川裕之氏の友情出演により、さらに豊かな音色に。



▲「大阪楽団」が繰り広げる「モダン音楽祭」では、場内から自然と手拍子が。「サウスサイドジャズバンド」の吉川裕之氏の友情出演により、さらに豊かな音色に。

なにわ大賞同窓会 in くだおれ

平成20年6月24日

歴代の受賞者や当会会員が、「くだおれ」に大集合。7月8日の閉店を惜しみつつ、爆発的な盛り上がりを見せました。

1 2 紙芝居や南京玉すだれなど、さすがに芸達者な人が多い! みんなの手拍子や合の手も絶妙
3 女将の登場に拍手と歓声が
4 無遅刻・無欠勤の太郎さんは、店頭で参加5全員で「たこ焼き踊り」。スゴすぎる団結力!
6 ガッツリ、くだおれましょ〜。



親睦あり、講演あり、体験あり、バラエティに富んだ月例会を開催!

ボウリング大会

平成19年4月20日

「千日前ファミリーボウル」で開催。前回優勝の島野涉さんを抑え、水谷英一さんが、「たこ焼きボールロフィー」を手に入れました。

▲左のたばこが小さく見える...

総会・記念講演会

平成19年5月17日

宗右衛門町の「ホテルメトロ・the21」で開催。記念講演は、燦キャピタルマネージメント(株)の前田健司氏が「投資から見た大阪のソリューション」をテーマにお話をしてくださいました。終了後、恒例のネットワークパーティも実施しました。

アジアのカジノ事情 プチセミナー&ルーレット体験

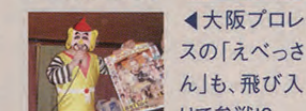
平成19年8月29日

北浜のレストラン「ジョーレ」で開催。(株)ブライトの石土輝和氏にアジアのカジノ事情についてお話をいただき、そのあと5班に分かれてルーレットを体験しました(金銭は賭けておりません)。

新年互礼クイズ大会

平成20年1月29日

第一部は「難波八阪神社」でお祓い神事。第二部は「味園」で、大阪のアレコレを題材にしたクイズ大会を行いました。優勝者が誰だったか今となっては不明ですが...、プービーメーカーの暮松邦一さんには、「月刊大阪人」1年分を進呈▶



▲大阪プロレスの「エベッサン」も、飛び入りで参戦!



▲司会は、「大売り出し」の法被を着た吉原直志さん&灰谷幸さん。

総会・記念講演会

平成20年5月26日

本町の「シティプラザ大阪」で開催。記念講演は、(株)am3の澤居

大介氏が「通販仕掛人によるITを使った儲け方」をテーマにお話をしてくださいました。



▲「楽天3万店のうち、儲かっているのは3%」「ケータイ通販で物が売れるのは25時〜27時」など、興味深いお話でした。

焼き肉パーティ

平成20年8月29日

会員の親睦と暑気払いを兼ねて、北新地の「食道園」で開催。



▲食道園の名物「華網カルビ」を食べて、みんなご機嫌!

「メイドイン尼崎」は いかにして誕生したか

平成20年10月28日

6月の現地研修会(本紙4面参照)で訪問した尼崎商店街から、(株)MTO尼崎の井原勝氏にお越しいただき、講演形式の月例会を実施しました。

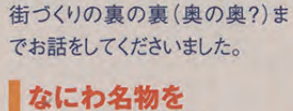


▲15の商店街で構成されている(株)MTO尼崎。「昭とひとケタ生まれの店主が多く、実は協調性がない」といった話にはじまり、街づくりの裏の裏(奥の奥?)までお話をしてくださいました。

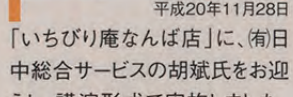
みんなで元気に 自社自慢! 時代を生き抜く ヒントは○○○だ

平成21年2月24日

11社が、持ち時間8分を使って、存分に自社自慢をしました。



▲自慢の商品持参、ボードで説明、紙芝居風、コント風など、自慢の仕方も多彩。この例会は、翌日の「朝日新聞」朝刊でも取り上げられました。



▲「いちびり庵なんば店」に、(有)日中総合サービスの胡斌氏をお迎えし、講演形式で実施しました。



▲資料も充実。アジア人観光客のマーケットについて、プロの胡斌氏から意見を伺いました。終了後は、アジア人観光客が多い「太陽楼」でプチ懇親会。その店構えと料理は、ディープな思い出として参加者の記憶に刻まれました(語り種に...)

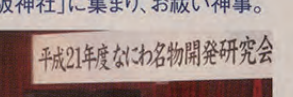
新年互礼会

平成21年1月29日

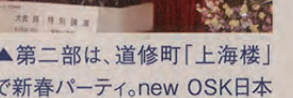
例年、非会員の方も多く参加してくださいさる恒例行事です。



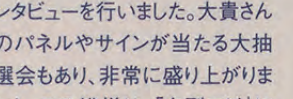
▲第一部は会員のみ「難波八阪神社」に集まり、お祓い神事。



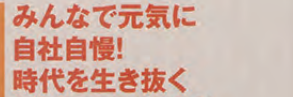
▲第二部は、道修町「上海楼」で新春パーティ。new OSK日本歌劇団の元トップスター・大貴誠さんをお招きして、特別講演&インタビューを行いました。大貴さんのパネルやサインが当たる大抽選会もあり、非常に盛り上がりました。この模様は、「夕刊フジ」にも掲載されました。



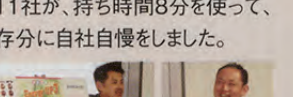
▲「大阪プロレス」の「エベッサン」も、飛び入りで参戦!



▲司会は、「大売り出し」の法被を着た吉原直志さん&灰谷幸さん。



▲資料も充実。アジア人観光客のマーケットについて、プロの胡斌氏から意見を伺いました。終了後は、アジア人観光客が多い「太陽楼」でプチ懇親会。その店構えと料理は、ディープな思い出として参加者の記憶に刻まれました(語り種に...)



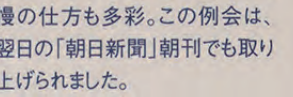
▲「いちびり庵なんば店」に、(有)日中総合サービスの胡斌氏をお迎えし、講演形式で実施しました。



▲自慢の商品持参、ボードで説明、紙芝居風、コント風など、自慢の仕方も多彩。この例会は、翌日の「朝日新聞」朝刊でも取り上げられました。



▲「いちびり庵なんば店」に、(有)日中総合サービスの胡斌氏をお迎えし、講演形式で実施しました。



▲自慢の商品持参、ボードで説明、紙芝居風、コント風など、自慢の仕方も多彩。この例会は、翌日の「朝日新聞」朝刊でも取り上げられました。

なにわひゃっけい

浪花百景がテーマの月例会!

平成19年度・20年度の事業計画のテーマは、「大阪の文化的資源を利用したビジネスの創造」。その端的な表現である、

「文化資源で、儲ける!」

を冠したセミナーを5回開催。原テルキさんを中心に、「浪花百景」の活用を模索しました。

①プレゼンテーション

平成19年6月27日



▲現在の大阪は「思考停止」「リスクに対する考えが甘い」「情報・知識・技術不足」といった弱点を、原さんが冒頭で指摘。文化資源のひとつである「浪花百景」を、地域活性化策に活かす提案がありました。

②文化で儲けるとは?

平成19年10月26日

当会会員の伴一郎さんに講師をお願いしました。



◀伴さんが企画・製作を手がけた「くいだおれキーホルダー」を参考に、浪花百景の商品化のヒントを探りました。

③その仕組みを考える

平成19年11月20日

独立行政法人中小企業基盤機構の滝谷昌彰氏が、各地の事例を交えた地域活性化策について話してくださいました。

④その仕組みが明らかに

平成20年2月26日

静的な文化資産を動的な文化資本に変える仕組みを、原さんがレクチャー。



▲NHKの取材カメラが入り、ワンシーンが放送されました。

⑤大阪最前線!

平成20年9月24日

文化でビジネスを成功させている通天閣観光(株)の西上雅章氏に講師をお願いしました。さらに、WEBプログラマーの石井一成氏を迎え、「浪花百景ビジネス」の説明会も実施。豪華2本立ての月例会でした。

発表!「浪花百景一首」

平成20年6月27日

「浪花百景一首」を思いついた阪上博通さん、その商品化を計画する藤井学さん、WEB2.0とのリンクを試みる原テルキさん。3部長による壮大な計画が発表されました。



模擬カルタ大会開催!

平成21年3月24日

「百景一首」の試作品を使って実施。商品化と実際の大会開催について検討しました。



▲改良点も話し合いました。

電車でGoGo! on阪堺チン電

平成20年4月26日

「チン電」こと阪堺電車を貸切り、天王寺駅・浜寺駅間を往復。飲食自由、浪花百景クイズもあり、楽しい春の1日でした。



▲我孫子道の車庫で記念撮影。クイズの賞品も豪華でした。担当の阪上さん、仲井さん、松本さん、ありがとうございます。

大阪の花街 ～昔、そして今～

平成19年12月20日

日本橋「大和屋本店」を会場に、忘年会を兼ねて実施。浪花百景にも描かれている新町や堀江など大阪の花街の映像、貴重な音源、さらに旭堂南陵師匠の講釈を交えて、大変充実した内容となりました。

ぶらぶら 浪花百景ウォーク in上町台地

平成19年9月15日

浪花百景の多くを占める上町台地。描かれている場所を実際に訪れて現在の様子を目にし、興味と理解を深めました。コースは、あちこち寄り道しながら、天王寺→谷九→鶴橋。



参加者は天王寺公園に集合。お茶、お菓子、浪花百景の資料を受け取って、いざ出発!



愛染さんでおなじみ、四天王寺の愛染堂勝鬘院。残暑厳しく、早くもバテ始める人が…。



手元の資料をチェック。「浪花百景」に描かれている多宝塔は、どこにあるのかな…。



上町台地にあり、景勝地として知られた「高津宮」。表参道の階段を上ると正面に本堂が。



ゴールの鶴橋で、焼き肉&ビール三昧。写真は載せられませんが…(汗)

新 / 会 / 員 / 募 / 集 / 中 /

なにわ名物開発研究会は、大阪で頑張るメーカー、流通、サービス、コンサルタント、クリエイターなどの業種・業態、ついでには「業」さえも超えたヒト・モノ・コトのネットワーク組織です。毎月の例会を始めとする多彩な行事で、会員間の交流・関係諸団体との交流を図りながら、大阪の活性化を目指しています。現在、新会員を募集中。詳細は事務局までお問い合わせください。

- 正会員…入会金10,000円・年会費36,000円
- 準会員…入会金5,000円・年会費18,000円

電話 06-6947-5260
mail info@naniwa-meibutsu.com
URL http://naniwa-meibutsu.com/

なにわ名物

検索



ご希望の方に、当会のリーフレットを差し上げております。

島野代表幹事のもと、月例会やら、なにわ大賞10周年イベントやら、盛りだくさんの2年間でした。そして21年度、バトンは岸本敏裕さんに手渡されました。従来にも増して内容の濃い行事を計画。みなさん、ぜひご参加ください。ところで、本紙には「あの月例会が載っていません(完成後に気づいたという噂も…)。さてどの月例会でしょう。わかったアナタは超マニア。いつの日か、岸本代表からバトンを手渡されるかもしれません。by 編集担当者



岸本敏裕さん

編集後記&クイズ

見学会 in 尼崎



オリジナル菰樽の製作も、ご覧の通り!

「工場萌え」や、「メイドイン尼崎」ブランドなどで注目度が高まっている尼崎で、平成20年6月16日に実施しました。

1 2 まず、阪急塚口駅に集合。当会会員企業の(株)岸本吉二商店で、菰樽(こもだる)づくりの見学&体験をしました。3 尼崎の菰樽メーカー2社で、国内銘柄の95%を占めると聞いて、みんなびっくり。

4 阪神尼崎駅に移動。(株)地域環境計画研究所の若狭健作氏のご案内により、商店街やメイドイン尼崎のショップを訪問しました。また、(株)TMO尼崎の伊良原源治氏から、まちづくりに関するお話も伺い、大いに参考になりました。

